

九州のエントランスとして世界へ羽ばたく。



# 福岡空港の概要

OUTLINE OF FUKUOKA AIRPORT

APRIL.2004



# 目次

contents

- 3 .....【沿革】
- 3 .....【組織】
- 4 .....【管轄区域】
- 6 .....【福岡空港の概況】
- 8 .....【空港周辺環境対策業務】
- 10 .....【航空保安防災業務】
- 11 .....【航空管制運航情報業務】
- 13 .....【航空管制業務】
- 14 .....【航空管制技術業務】
- 16 .....【土木建築業務】
- 17 .....【電気業務】
- 17 .....【航空灯火施設管理業務】
- 18 .....【航空灯火システムの概念図】
- 20 .....【機械業務】
- 22 .....【福岡空港施設の概要】
- 24 .....【福岡空港制限表面図】
- 26 .....【福岡空港見取図】

# 飛翔

## 世界に開かれた、九州の表玄関

福岡空港は昭和19年2月に旧陸軍が席田飛行場として建設に着手し、翌昭和20年5月に滑走路が完成したが、終戦により昭和20年10月に米軍に接収されることとなり、その後米軍管理のもとで板付基地として運営されてきました。

この間、昭和26年10月に民間航空の国内線として、東京 - 大阪 - 福岡の航空路が開設され、昭和40年9月には定期国際線として、福岡 - 釜山の航空路が開設されることとなり、以来、西日本における国際線を有する幹線空港として米軍管理の下で発展してきました。

その後、昭和45年12月に日米安全保障協議委員会において運輸省への移管がきまり、昭和47年4月に運輸大臣が設置し及び管理する第二種空港として供用が開始され、同時に「公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律」による特定飛行場に指定されました。

現在は、国内線27路線、国際線24路線を有し、年間の乗降客数は約1千9百万人で、九州の表玄関としての役割を果たしています。

2





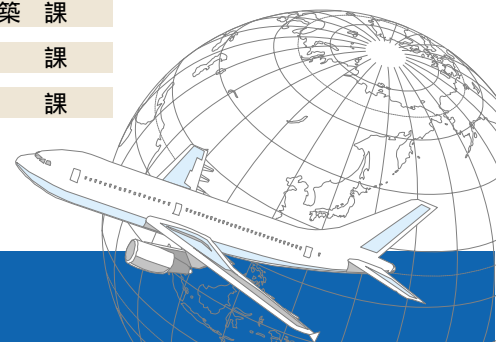
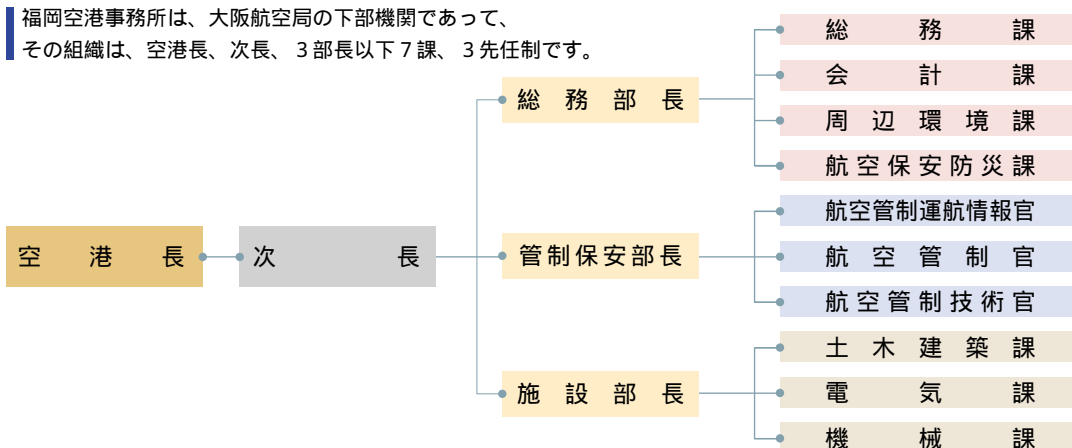
# 沿革

歴史の変遷を乗り越え、未来に向けて邁進します。

昭和22年 5月	通信省航空保安部の地方機関として板付支所が開設される。
昭和24年 6月	電気通信省の外局として、航空保安庁が設置され、福岡航空保安事務所となる。
昭和25年12月	運輸省の外局として航空庁となり、福岡航空保安事務所となる。
昭和27年 8月	運輸省の内局として航空局となり、福岡航空保安事務所となる。
昭和42年10月	運輸省の地方支分部局として大阪航空局が設置され、その下部機関として福岡空港事務所となる。
昭和46年 7月	警務消防課、管制技術課及び先任航空管制官が設置され、電気機械課が電気課及び機械課に分課される。
昭和47年 4月	米空軍基地板付飛行場が返還され、運輸省所管の第2種空港『福岡空港』として管理運営されることとなる。
昭和48年 4月	先任航空管制通信官が設置され、飛行場情報提供業務が開始される。
昭和49年 4月	騒音調査室が設置される。
昭和50年 4月	騒音調査室が騒音対策課に改められる。
昭和55年 4月	通信技術課及び管制技術課を廃止し、先任航空管制技術官及び次席航空管制技術官が設置される。
昭和57年10月	会計課が設置される。
昭和58年 4月	次席航空管制官が設置される。
昭和60年 4月	航務課及び通信課を廃止し、先任航空管制情報官及び次席航空管制情報官が設置される。
平成 8年 5月	騒音対策課を廃止し、周辺環境課が設置される。
平成 8年 6月～平成 9年 3月	統合庁舎へ移転する。
平成 8年 7月	機械課に福岡機械施設管理センターが設置される。
平成 9年 2月	新管制塔へ管制業務の運用が移行される。
平成 9年 4月	警務消防課を廃止し、空港保安防災課が設置される。
平成14年10月	総務部長、管制保安部長及び施設部長が設置され、航空管制情報官及び航空管制通信官を廃止し、航空管制運航情報官が設置される。

# 組織

福岡空港事務所は、大阪航空局の下部機関であって、その組織は、空港長、次長、3部長以下7課、3先任制です。





# 管轄区域

## 1 空港事務所等組織規則第2条に係る管轄区域

福岡県（行橋市、豊前市、北九州市、京都郡及び築上郡を除く。）  
佐賀県（全域）  
長崎県（壱岐、対馬市に限る。）

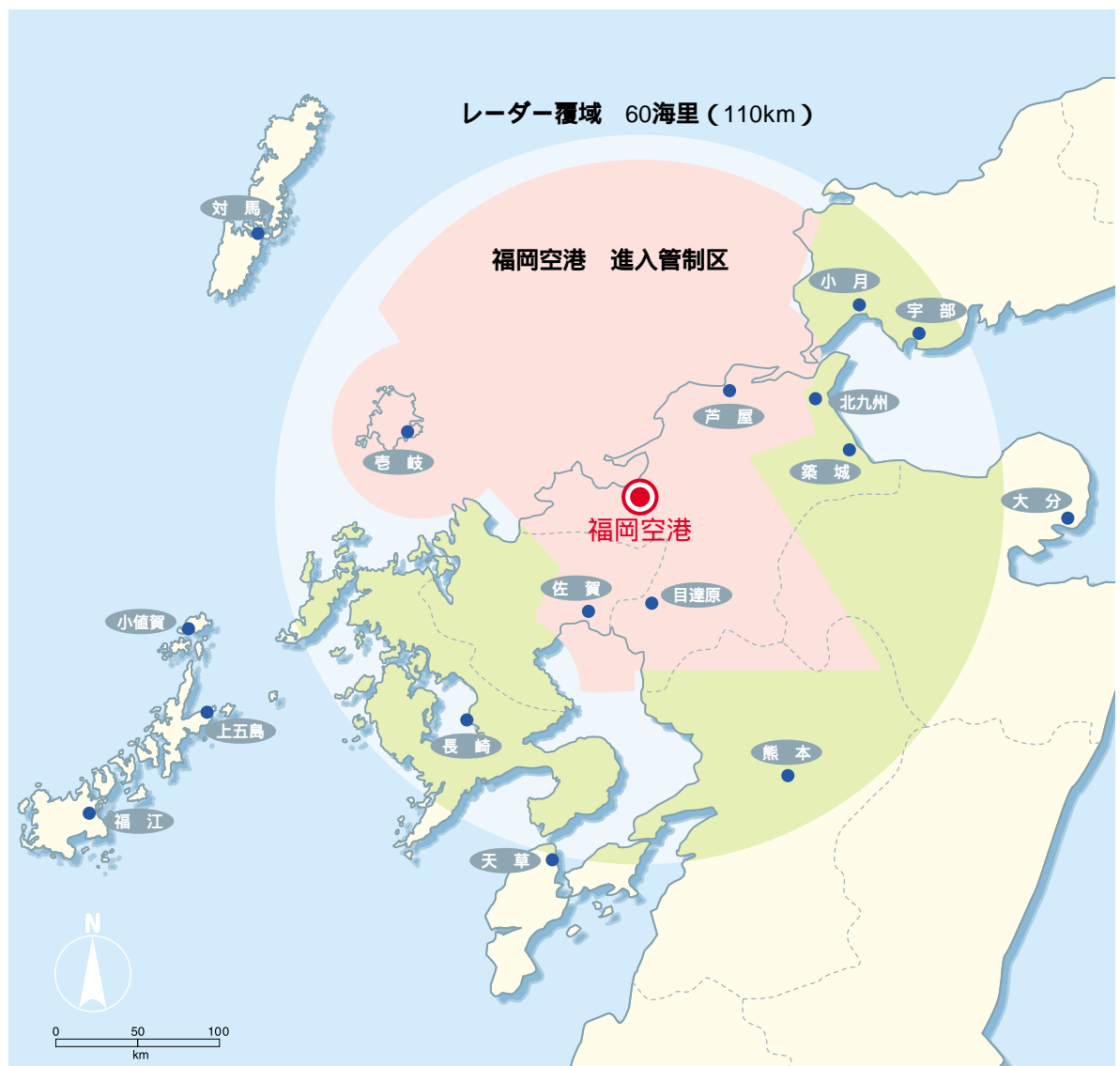
## 2 航空法第2条第12項に係る航空交通管制圏

福岡空港の標点から、半径9kmの円内及び進入経路に沿って、北へ14km、幅7kmの矩形部分。

## 3 航空法第96条第3項第4号に係る進入管制区

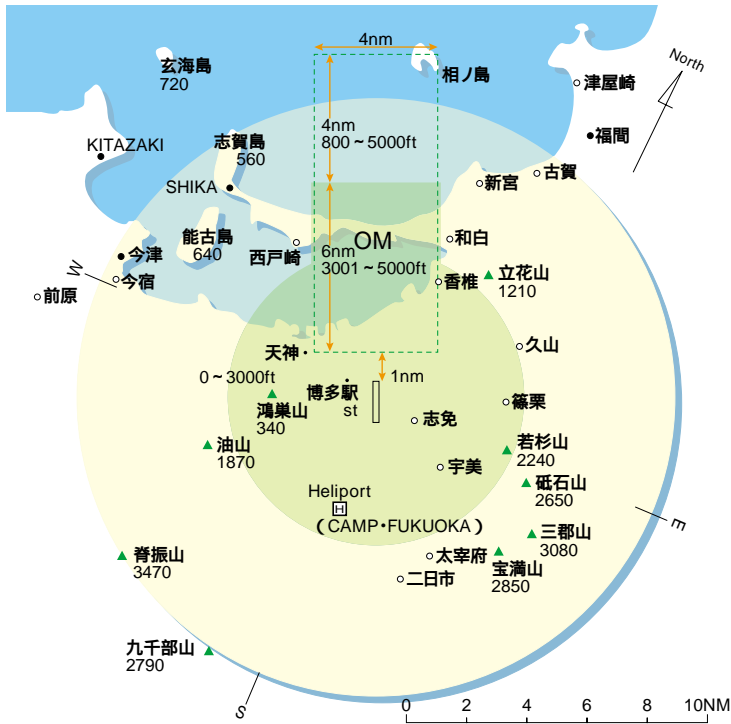
北は福岡NDBから玄界灘に向かって81km沖合、東は北九州市へ43km、南は大牟田市上空68km、西は壱岐NDBを中心として半径27kmの円弧で囲まれる下図に示す空域。

福岡空港進入管制区及びレーダー覆域図

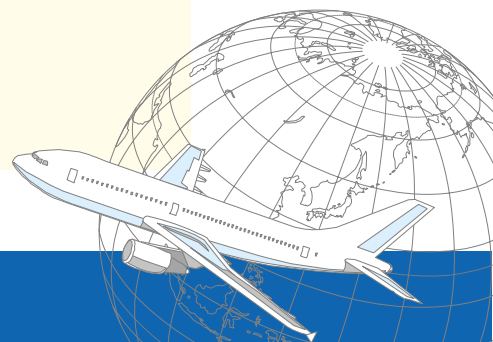
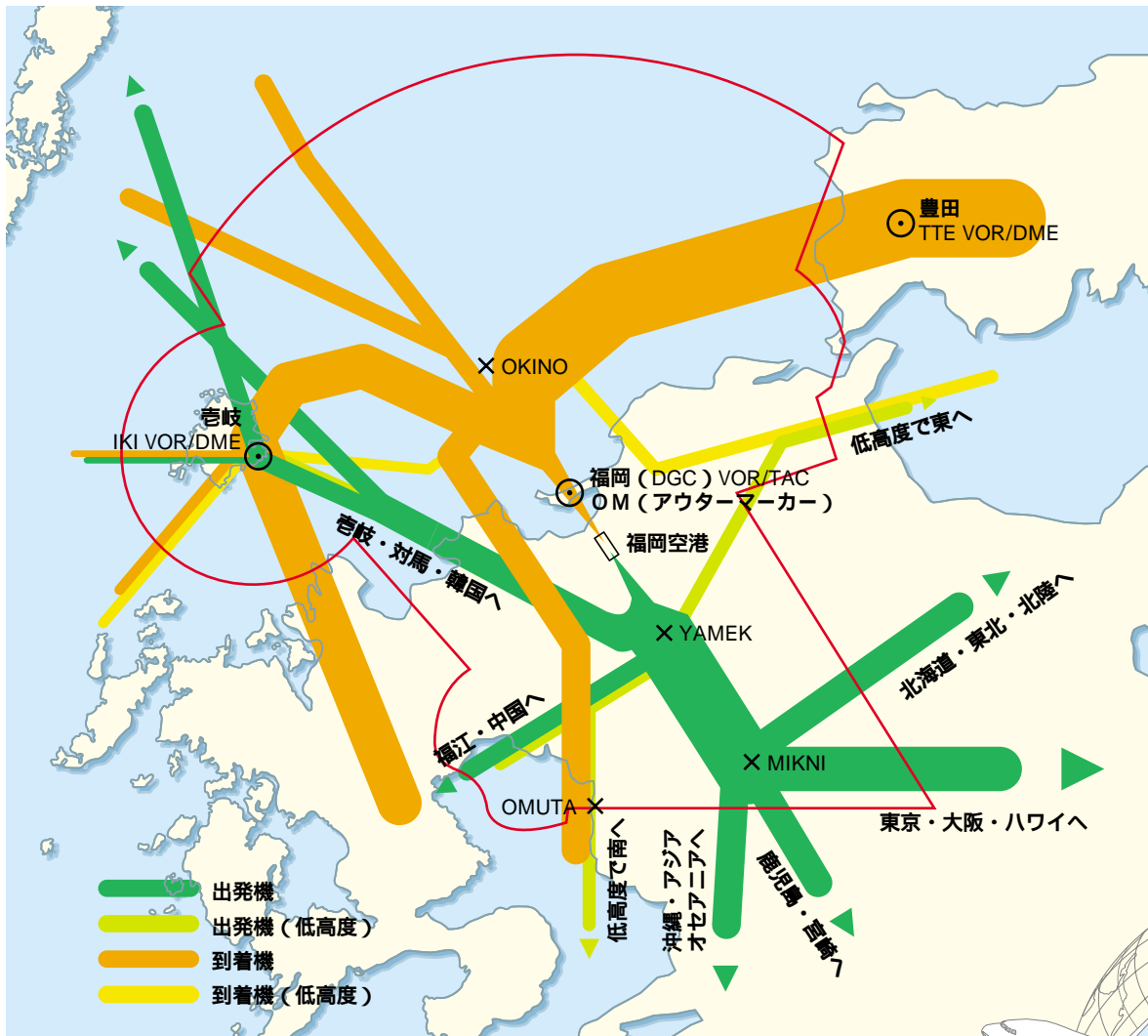




福岡空港周辺図



福岡進入管制区の主な交通の流れ





# 福岡空港の概況

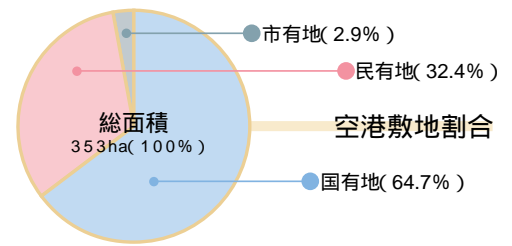
## 1 空港の現況

空港位置 福岡市東南部（都心より7km）

空港面積 353ha（内国土地64%）

滑走路 2,800m（1本）

アクセス 福岡市営地下鉄  
（博多駅まで2駅、約5分）

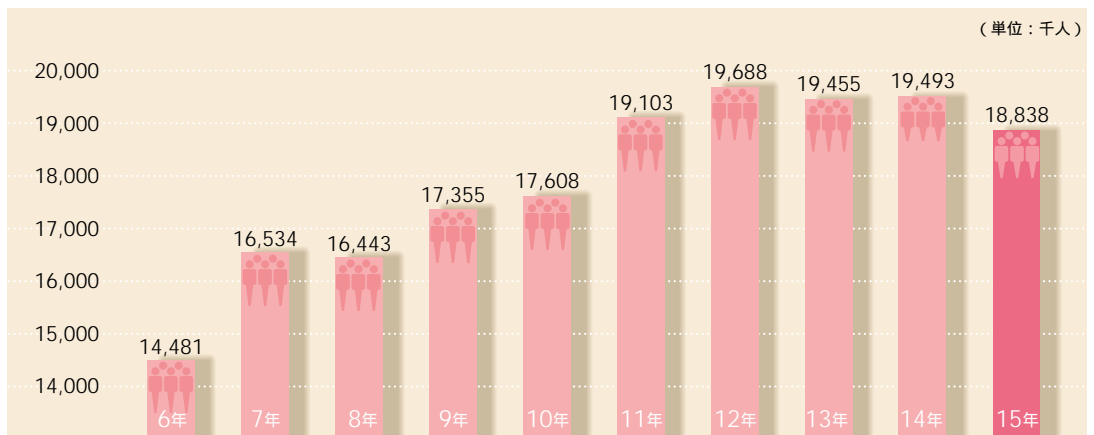


## 2 利用状況

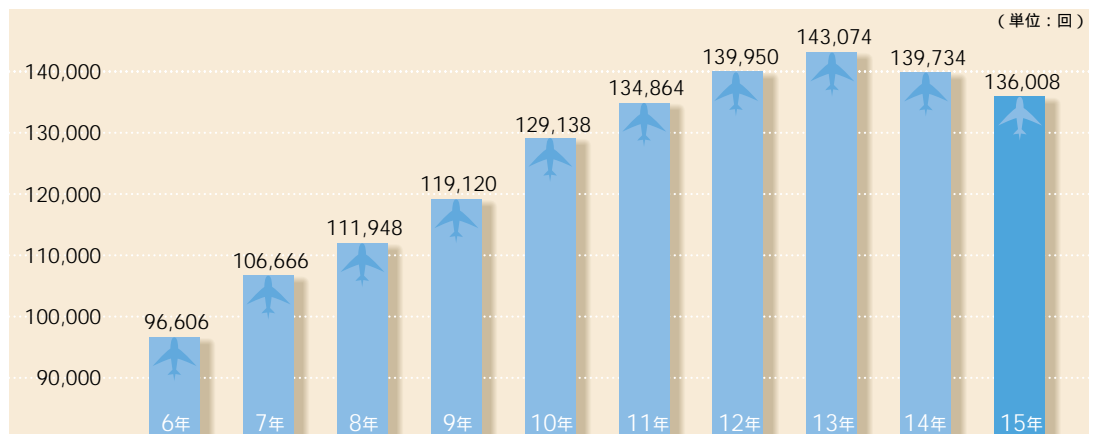
平成15年の輸送実績（概数）

類別	種別	発着回数(回)	旅客数(人)	貨物量(屯)	郵便物量(屯)
国内線	前年)	126,152	17,282,513	183,699	25,788
	本年)	122,992	17,097,816	188,425	25,704
国際線	前年)	13,582	2,210,656	62,522	949
	本年)	13,016	1,739,784	51,690	923
合計	前年)	139,734	19,493,169	246,221	26,737
	本年)	136,008	18,837,600	240,115	26,627

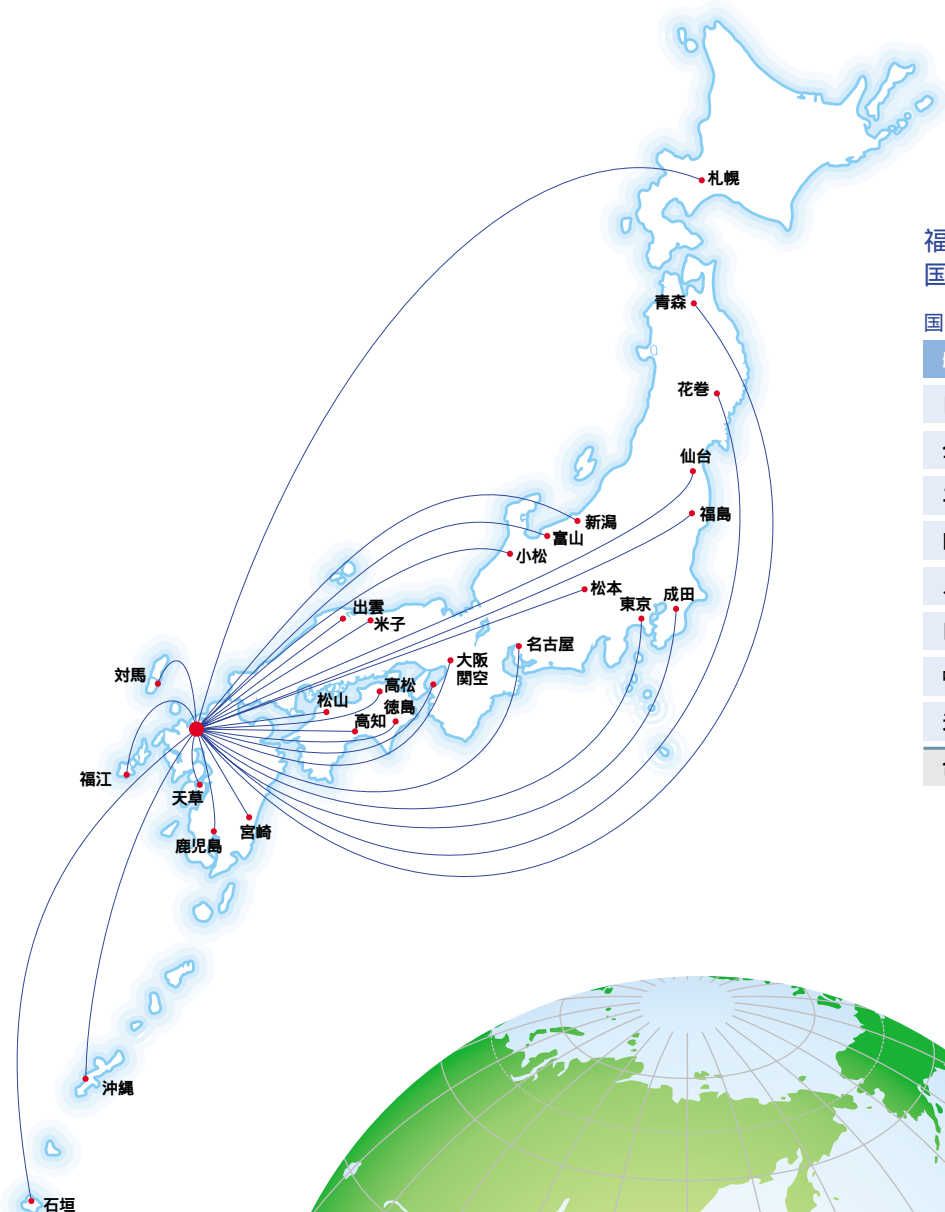
乗降客数の推移



発着回数の推移



# 福岡空港の概要



## 福岡空港の定期航空路線網 国内線

国内線（2004年4月ダイヤ）

航空会社名	路線数	日便数
日本航空	13	122
全日空	6	68
エアニッポン	12	60
日本トランスオーシャン航空	1	2
スカイマーク	1	18
日本エアコミューター	7	26
中日本エアラインサービス	1	2
天草エアライン	1	8
合計	42	306



## 福岡空港の定期航空路線網 国際線

国際線（2004年夏ダイヤ）

国際線運航社数	路線数	週便数
18社	24	292







# 空港周辺環境対策業務



空港環境対策は、発生源対策、空港構造の改良及び周辺環境対策に分けられます。

- ①発生源対策は、騒音が航空機から発生する時点で低くなるようにするため、低騒音機の導入・エンジンの改良及び夜間運航の制限・騒音軽減運航方式（急上昇方式・カットバック上昇方式・低フラップ角着陸方式）などの対策があります。
- ②空港構造の改良には、空港本体の基本施設（滑走路・誘導路等）が考えられますが、他方では航空機騒音の影響を緩和するため空港内に緑地帯を設けてこれに対処しています。
- ③周辺環境対策は、民家等の防音工事助成、空港関係市町村が行う公園等整備の助成、騒音激甚地区居住者の移転に伴う建物等の補償及び土地の買い取り、その土地の緩衝緑地等整備を実施しています。

なお、当事務所の周辺環境課は、上記対策の実施に係る関係機関との調整業務、騒音データ収集業務及び移転補償跡地等の維持管理業務を行っています。

## 1 騒音データ収集業務

福岡空港周辺における航空機騒音を測定するために設置した航空機騒音監視装置により記録されたデータを収集し、整理を行っています。

## 2 移転補償跡地等の維持管理業務

騒音激甚地区居住者の移転に伴う跡地全部及び跡地の一部に整備された緩衝緑地の維持管理を行っています。



騒音音合施設

緩衝緑地



助成による公園等整備



## 福岡空港について 第一種区域、第二種区域 及び第三種区域を 指定する図

### 凡例

区 域	告 示 日	WECPNL
第一種区域	昭和57年3月30日	75以上
第二種区域	昭和54年7月10日	90以上
第三種区域	昭和49年8月31日	95以上

### WECPNLとは

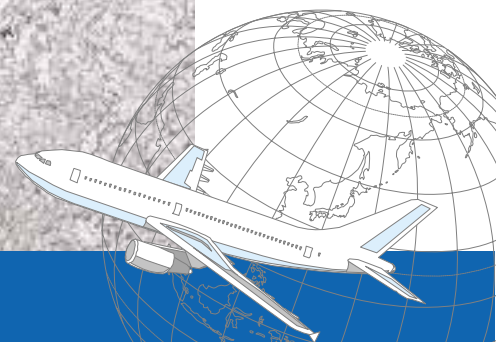
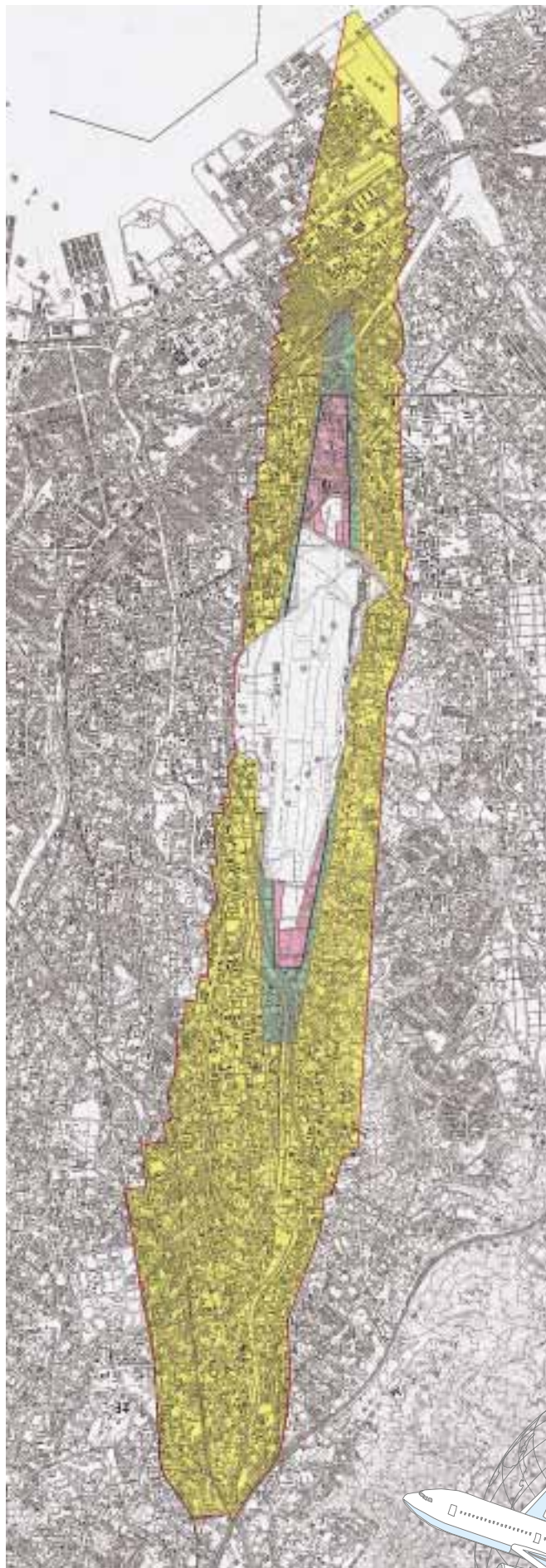
加重等価平均感覚騒音レベル (Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level) の略で、ある場所における1日あたりの航空機騒音の大きさを表わす単位です。

まず、1日に飛来する全ての航空機の騒音値を平均して、さらに機数を考慮します。同じ大きさの騒音でも昼と夜とでは夜の方がうるさく感じるので、夕方(19:00~22:00)に飛来した機数を昼(07:00~19:00)の3倍、夜(22:00~07:00)に飛来した機数を昼の10倍にして計算します。

WECPNLは、1969年に国際連合の専門機関である国際民間航空機関(ICAO)で決められたものです。

### 指定区域内面積

区 域	面 積 (ha)
第一種区域	1,750
第二種区域	216
第三種区域	82
合 計	2,048





# 航空保安防災業務



航空保安防災業務は、航空の安全運行のため空港内の秩序維持、空港の機能を確保することを目的としています。

## 1 保安業務

航空機ハイジャック対策及び空港における要人の接遇、又、制限区域（場周区域）の立入許認可業務を行っています。

## 2 防災業務

空港及びその周辺における航空機事故に伴う、消火救助活動を行っている。又、航空機事故における関係機関（消火救難隊）との連絡調整及び各訓練計画等を行っています。

## 3 空港救急医療業務

航空機事故及び空港における大災害が発生した場合、負傷者の応急処置及び軽傷・中等傷・重傷の救護所等の設営を行っている。

又、救急医療機関・医師会等との事故現場における、調整業務を行っています。



# 航空管制運航情報業務



航空管制運航情報業務は、航空機の運航の支援を効率的に行うため、空港運用、航空情報の提供等を実施する航空管制情報官と対空通信（管制通信）を実施する航空管制通信官を統合した航空管制運航情報官において福岡FSC(Flight Service Center)を運用開始し、無線電話による航空機の安全運航に必要な情報提供とシームレスな運航監視を24時間体制で一元的に実施しています。

航空管制運航情報業務は運航援助情報業務、飛行場情報業務及び対空援助業務で構成され、主に次のような業務を所掌しています。

## 1 運航援助情報業務

- ・ 航空情報の作成・提供
- ・ 飛行計画の受付・審査
- ・ 運航監視
- ・ 場外離着陸場等の許可
- ・ 捜索救難調整
- ・ 音声自動化装置によるATIS及び広域情報の放送
- ・ 民間訓練／試験空域の使用調整及び情報提供
- ・ ライブインスペクション



運航管理席・スポット管理席

## 2 飛行場情報業務

- ・ 飛行場面の管理・運用
- ・ 制限区域内の安全管理
- ・ スポットの管理・運用
- ・ 鳥獣対策
- ・ 飛行場及びその周辺の障害物件の把握並びに必要な措置



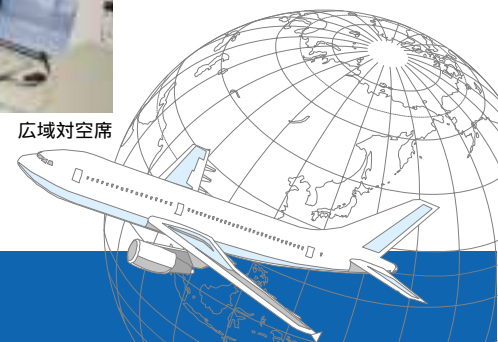
広域情報放送席

## 3 対空援助業務

- ・ 管制通報及び位置通報の伝達
- ・ 気象レーダーエコー情報の提供
- ・ 運航通報の伝達
- ・ パイロットの収集・提供
- ・ RAG業務(上五島・小値賀空港)

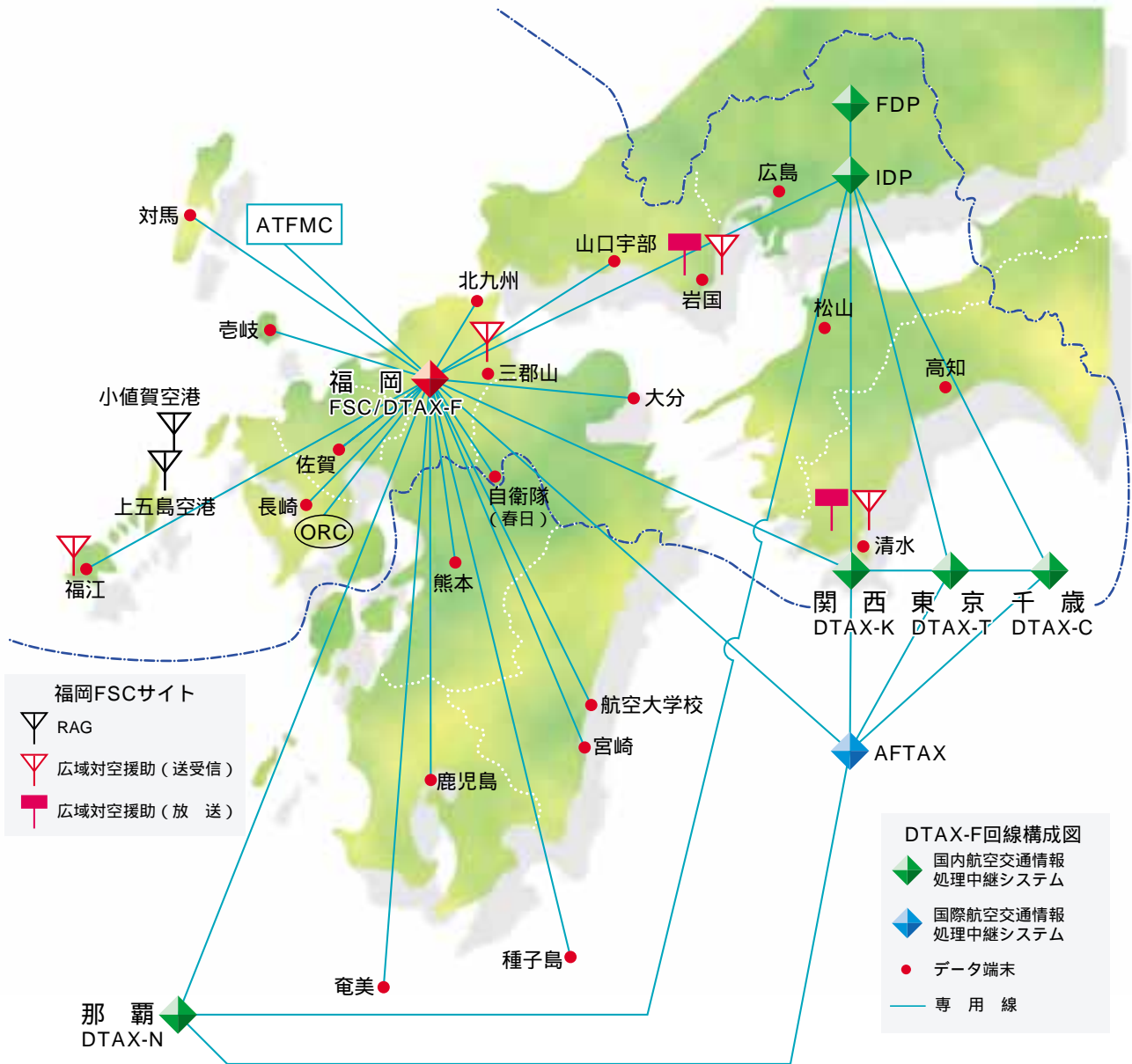


広域対空席





## 福岡FSCサービスエリア



# 航空管制業務

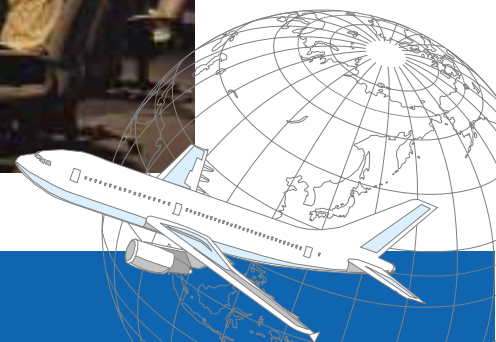


管制業務は、航空交通の安全と秩序ある流れの維持を図るため、航空機に離着陸の順序、時機、又、飛行中の経路、高度等を許可もしくは指示するものです。当事務所の航空管制官が行う管制業務は次のとおりです。

## コントロール・タワーにおける飛行場管制業務



## 計器飛行管制室における進入管制業務及びターミナル・レーダー管制業務





# 航空管制技術業務



管制技術業務は航空機を安全に運航させるため、航空保安無線施設及び航空管制施設ならびに管制通信施設の運用及び保守・管理業務を実施するものです。

当事務所の航空管制技術官は福岡空港、対馬空港及び壱岐空港の施設の運用及び保守・管理業務を行うほか、システム統制業務と信頼性技術管理業務及び現場訓練業務を行っています。

## 1 システム統制業務

航空無線関係施設は、常に最良の状態で開催されなければなりません。

そのためシステム統制業務においては、レーダー、コンピュータ、航空保安無線施設、航空通信施設など航空管制や航空機の離発着に使用する航空無線関係施設の監視及び保守計画の策定、保守の実施の指示および運用者との連絡調整を行うことによって、航空無線関係施設の運用状況を一元的に把握し、障害等が発生した場合、航空機の運航への影響が最小限となるようにつとめています。



## 2 運用、保守業務



航空機は、航空保安無線施設等を利用して正確なフライトを可能にしています。

航空管制技術官は、福岡空港を利用する航空機のためのILS、VORTAC、及び航空管制官の使用するARTSなどの情報処理装置、VHF・UHFの対空通信施設の他、壱岐・対馬にある航空保安無線施設等の運用を行うとともに、これ等の施設の機能を正常に維持するための保守を実施しています。

## 3 信頼性技術管理業務

管制技術業務の効率化とシステム機器類の信頼性の確保のためには、無線関係施設の詳細な運用・障害データを処理分析し、メンテナンスに関する航空管制技術官の経験やノウハウのデータベース化が有効となります。

こうした、数多くのデータを全国で共有することにより、航空無線関係施設の信頼性向上を目的とするのが、MDP(Maintenance Data Processing)信頼性技術管理業務です。

福岡MDPは自官署を含む10ヶ所の保守官署を結ぶネットワークの中心となるMDP官署の役目を果たし、他の7ヶ所のMDP官署、本省、地方局との広域で一元的MDPシステムを構築しています。





## 4 訓練業務

最新技術を用いた航空無線関係施設を運用及び保守・管理するためには、現場における航空管制技術官の訓練が不可欠です。

このため福岡空港を含め全国8ヶ所にあるMDP官署には航空管制技術官として必要な知識と経験豊富な訓練教官が配置されており、隣接する保守官署の研修・訓練の一元管理を行い、航空管制技術官の技術向上を図っています。



## 5 技術管理業務

航空管制技術官組織の運営に必要な一般管理、庶務、並びに無線施設の維持管理・施設改善工事及び施工管理等の業務を実施しています。

### 航空管制技術官が運用及び、保守、管理を行っている無線施設

福岡空港：対空通信施設(A/G)、飛行場情報放送施設(ATIS)、飛行援助施設(FSC)、計器着陸装置(16ILS、34ILS)、全方向方位距離測定装置(TACAN)、全方向無線標識施設(VOR)、無指向性無線標識施設(NDB)、ターミナルレーダー施設(第一ASR/SSR、第二ASR/SSR)、ターミナルレーダー情報処理システム(ARTS)、空港面探知レーダー施設(ASDE)、保守情報処理システム(MDP)、システム統制装置(SSE)

対馬空港：対空通信装置(A/G)、計器着陸装置(ILS)、全方向無線標識施設(VOR)、距離情報提供施設(DME)、無指向性無線標識施設(NDB)

壱岐空港：対空通信施設(A/G)、全方向無線標識施設(VOR)、距離情報提供施設(DME)、無指向性無線標識施設(NDB)



計器着陸装置(ILS - LLZ)



計器着陸装置(ILS - GS)



対空通信受信施設(A/G - RX)



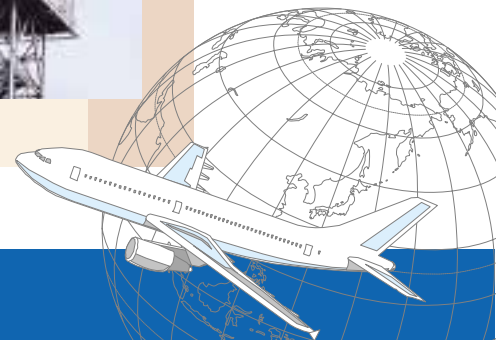
ターミナルレーダー情報処理システム(ARTS)



ターミナルレーダー施設(ASR/SSR)



対空通信送信施設(A/G - TX)







# 土木建築業務



土木業務は、滑走路・誘導路・エプロン等及び構内道路・高架道路・駐車場（有料駐車場は除く）、排水施設、場周柵等の基本施設及び付帯施設の維持管理業務である。

主な業務内容としては、空港用地内施設の保守点検業務、着陸帯の草刈、舗装面の清掃、排水施設の清掃、滑走路・誘導路・エプロン等の標識及び植栽の手入れ等の維持工事、及び破損した舗装等を補修する修繕工事を行っています。

また、降雪時の航空機の定時運航の確保に備えるため、除雪の実施体制を確立しています。

建築業務は、庁舎・局舎・車庫等の保守点検・維持管理業務及び空港整備事業に係る施工管理、建築施設の修繕工事の設計・施工監理を行っています。

また、近年は特に、建築施設の整備後の保全業務の重要性が高まり、事後保全から点検と計画修繕による予防保全への強化が進められています。

保守点検



排水清掃



草刈



標識



舗装面清掃



植栽手入れ

# 電気業務



電気業務は、受配電設備及び航空灯火施設を飛行場灯火電力監視制御装置等により維持管理する業務、並びに航空法に基づく類似灯火の制限、航空障害灯及び昼間障害標識の設置に関する業務を行っています。

受配電設備は、電力会社から供給される電力を航空灯火等の航空保安施設及び統合庁舎等の建物施設に供給しており、平成11年3月に更新しました。

飛行場灯火電力監視制御装置は、航空灯火施設と受配電設備の運用状態監視から制御、計測、記録まで管理する集中監視方式となっています。



受配電設備



24時間監視をしている監視室

# 航空灯火施設管理業務



夜間、空港内の滑走路等にまばゆく光る航空灯火は、それぞれの役割に応じて彩られ、配置されています。

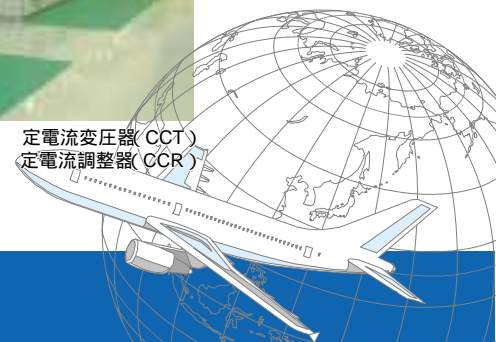
進入灯は着陸する飛行機を滑走路に導く白い光、滑走路末端灯は滑走路の末端を示し、飛行機の進入方向から手前が緑、先が赤の光、滑走路灯は滑走路の輪郭を表す白い光、誘導路灯は着陸した飛行機をエプロンまで導く青い光、その誘導路の中心を示す誘導路中心線灯は、緑の光というふうに福岡空港で3千数百個の明かりがあります。

こうした灯光をパイロットが正しく認識することで、自分の位置や進むべき経路、姿勢などを知ることができるようになっています。

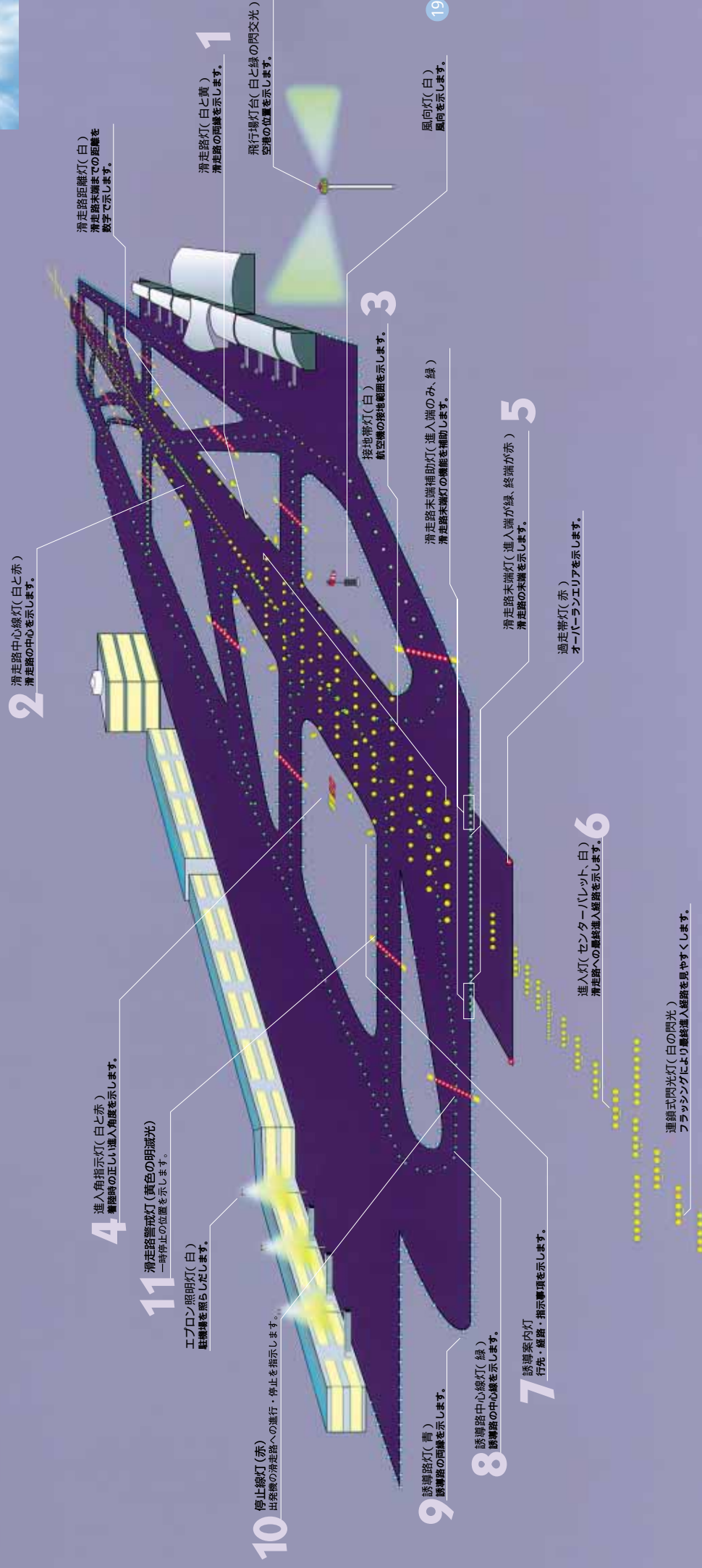
空港における滑走路灯火及び誘導路灯火は長距離、広範囲に渡り分散配置され、均一な光度で点灯させるために並列点灯回路（一般の家庭・ビル）ではなく直列点灯回路となっています。電源として定電流調整器を使用しています。



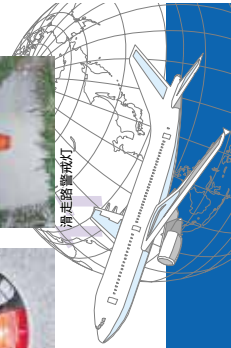
夜間時の航空灯火

定電流変圧器(CCT)  
定電流調整器(CCR)

# 航空灯火システムの概念図



## 各種点灯装置

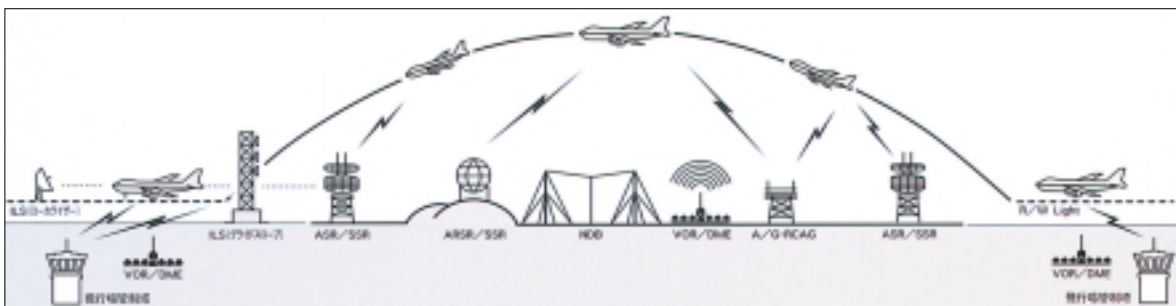


# 機械業務



21世紀に入り、ますます重要性を高めている航空交通にとって最も大切なテーマは「航空の安全」です。

一瞬の機能停止も許されないセパレーション、インフォメーション、ナビゲーションなどの航空保安業務において、機械施設管理保全センターは、機械施設の確実で迅速な保全管理体制の一翼を担い、航空輸送の安全を確保しています。



## 機械施設のいろいろ

### 空気調和設備

温度・湿度に敏感なレーダーやコンピュータなどの環境を常に最適に保つ設備です。



### 発電設備

商用電源の停電時に長時間にわたり安定した電力を供給する設備です。



### 無停電電源設備 (CVCF)

瞬時の停電も許さず、連続して安定した電力を供給する設備です。



### 受変電設備

電力会社から送られてきた電力を各機器の運用条件に合わせて変圧し供給する設備です。



電力会社

機械施設管理保全センター



## 機械施設管理保全センター

「機械施設管理保全システム」は、機械施設を24時間にわたり監視するとともに必要なデータを解析し、不測の事態を予防する確かな保全情報はもちろん、施設の効果的な活用や機能の管理情報を提供しています。



### 統括監視卓

機械施設の状態や故障情報を表示するグラフィックパネルと、制御指令や状態情報の詳細を表示する中央監視・制御操作卓です。



グラフィックパネル



### 中央処理装置

機械施設の監視・制御・管理はもちろん、故障診断や故障予知などを行うための情報処理装置です。



### 端末操作卓

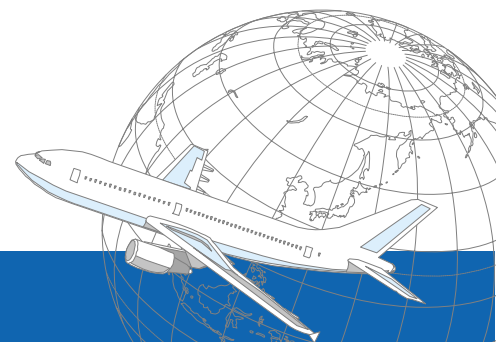
機械施設の管理情報の入出力をはじめ、計測情報の表示や故障診断、故障予知などを行う操作卓です。

主な画面例



### サイトシステム

機械施設の情報収集や制御指令を機械施設に伝えるための中継装置です。



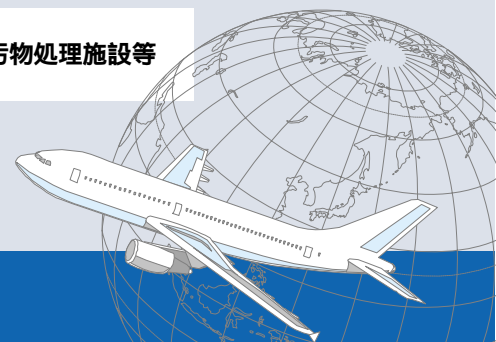


# 福岡空港施設の概要

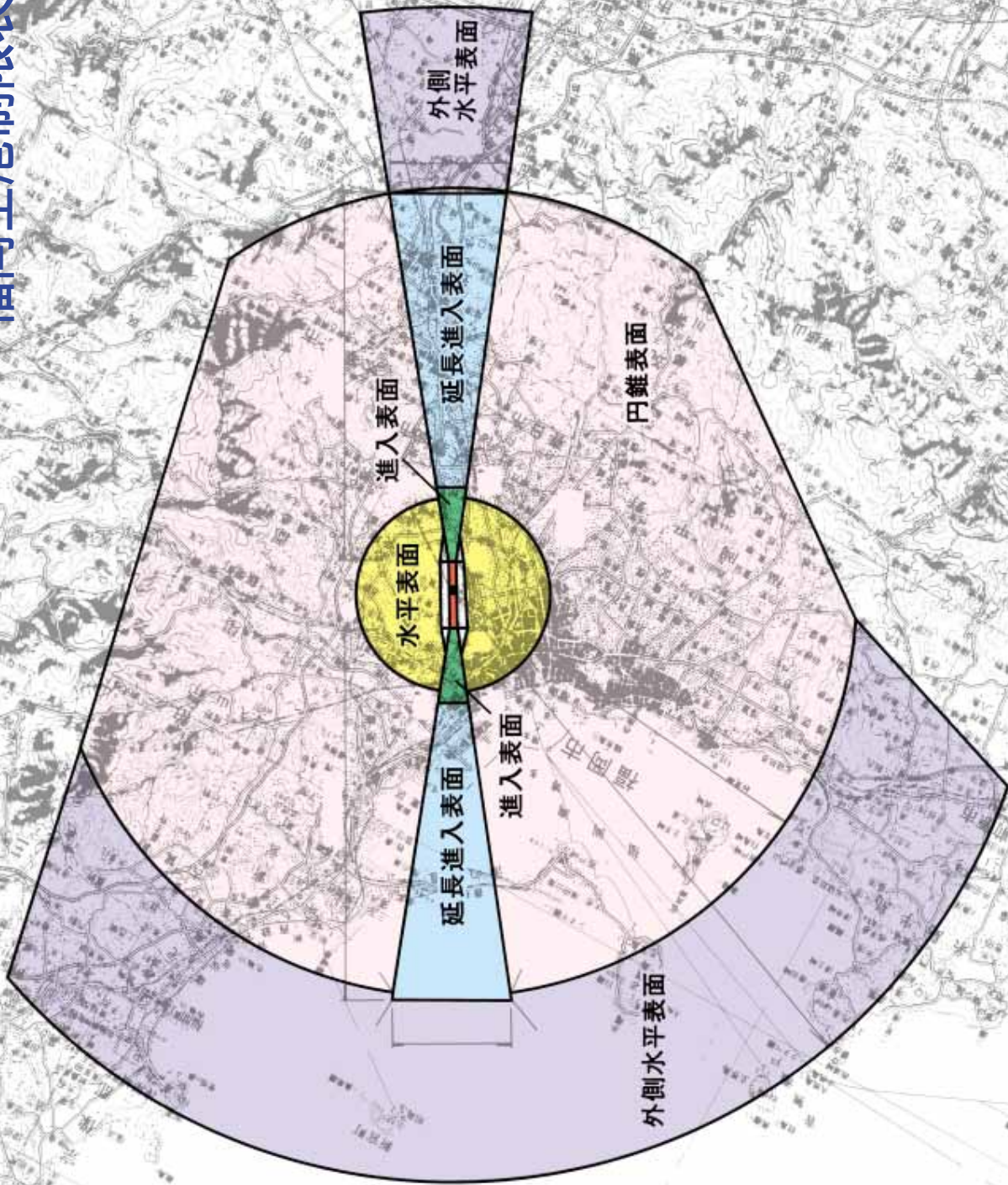
区 分	現 況
空 港 の 位 置	標点位置 北緯33度35分4秒 東経130度27分6秒 標高9.1m
空 港 面 積	3,530,850㎡
対 象 航 空 機	B 747クラス
滑 走 路	2,800m × 60m (グレーピング施工) 方位 北29度45分50秒西 (真方位)
誘 導 路	8,618m
エ プ ロ ン	594,864㎡ 43バース ローディング×31、ナイトステイ×12
駐 車 場	国内線 普通車930台、大型車18台 国際線 普通車897台
航空灯火および電源施設	<p>進 入 照 明 進入灯、連鎖式閃光灯、旋回灯、進入角指示灯</p> <p>滑 走 路 照 明 滑走路灯、滑走路末端灯、滑走路末端補助灯、過走帯灯、滑走路中心線灯、接地帯灯、滑走路距離灯</p> <p>誘 導 路 照 明 誘導路灯、誘導路中心線灯、誘導案内灯、停止線灯、滑走路警戒灯</p> <p>指示・信号照明 風向灯、指向信号灯、スポット番号表示灯</p> <p>位置標示照明 飛行場灯台</p> <p>障害物照明 危険航空灯台、航空障害灯</p> <p>そ の 他 エプロン照明灯、道路駐車場照明灯</p> <p>電 源 施 設 商用電源、1系統引込、電源局舎・1,220KW、無停電電源設備200KVA × 2、発電設備・1,000KVA × 1・625KVA × 1・40KVA × 1 (VORTAC・NDB)、移動式発電装置500KVA × 1、可搬型発電装置40KVA × 1</p>
無 線 関 係 施 設	対空送信所、対空受信所、ATIS、FSC、第一ASR/SSR、第二ASR/SSR、ARTS、16ILS(LLZ、GP、MM、OM)、34ILS(LLZ、GS/T-DME)、VORTAC、NDB、ASDE、MDP、SSE
航空固定通信施設	DTAX - F



区 分	現 況
消 火 救 難 施 設	<p>消防車両(航 空 局) 指揮車 1 台、高速化学消防車 1 台、超大型化学消防車 2 台、超大型化学予備消防車 1 台、救難照明車 1 台、給水車 1 台、医療作業車 1 台、連絡車 1 台</p> <p>(自 治 体) 大型空港用化学車 1 台、大型タンク車 1 台、普通ポンプ車 1 台、救急車 1 台、連絡車 1 台、工作救助車 1 台</p> <p>(航空自衛隊) 普通消防車 1 台、破壊機救難消防車 2 台、4,000ガロン給水車 1 台、20 t トラッククレーン 1 台</p> <p>消火栓...地上 3 基、地下19基</p> <p>貯水槽...地上(ポンプ室) 144m<sup>3</sup> 地下(小型機エプロン) 40m<sup>3</sup></p> <p>地下(訓練場) 200m<sup>3</sup> 地下(西側エプロン) 40m<sup>3</sup></p> <p>地下(高速ポンプ) 40m<sup>3</sup></p>
ターミナルビル(官民)	<p>第 1 ターミナルビル 4 階建19,387m<sup>2</sup></p> <p>第 2 ターミナルビル 一部 5 階建60,901m<sup>2</sup></p> <p>第 3 ターミナルビル 一部 4 階建30,582m<sup>2</sup></p> <p>国際線ターミナルビル 一部 4 階建69,542m<sup>2</sup></p> <p>” エネルギー棟 2 棟3,336m<sup>2</sup></p>
貨 物 ビ ル ( 民 )	国際線貨物ビル一部 4 階建12,145m <sup>2</sup> 、国内線貨物ビル(航空会社棟9,097m <sup>2</sup> 、代理店棟1,644m <sup>2</sup> 、エネルギー棟 1,085m <sup>2</sup> )
格 納 庫	海上保安庁 1 棟、航空自衛隊 2 棟、西日本空輸(株) 2 棟、県警航空隊 1 棟、市消防航空隊 1 棟、空港施設(株) 1 棟、エア・ニッポン(株) 1 棟
給 油 施 設 ( 民 )	貯油タンク50kl 4 基、990kl 6 基、1673kl 2 基、ハイドラント施設29バース
動 力 供 給 施 設	<p>ハイドラント方式、電力(機内用)</p> <p>400サイクル(交流)および28ボルト(直流)</p> <p>圧搾空気(ジェットエンジンスターター用)、空調(冷暖房)</p>
航空機騒音測定装置	測定局 3 ケ所、中央処理装置 1 ケ所
ハイジャック対策施設	<p>手荷物検査: X線透視検査装置 9 台(国際線 2 台、国内線 7 台)</p> <p>受託手荷物 X線透視検査装置13台(国際線 3 台、国内線10台)</p> <p>旅 客 検 査: 金属探知器 9 台(国際線 2 台、国内線 7 台)</p>
そ の 他	機内食工場、診療所、車両給油所、車両整備施設、航空機汚物処理施設等

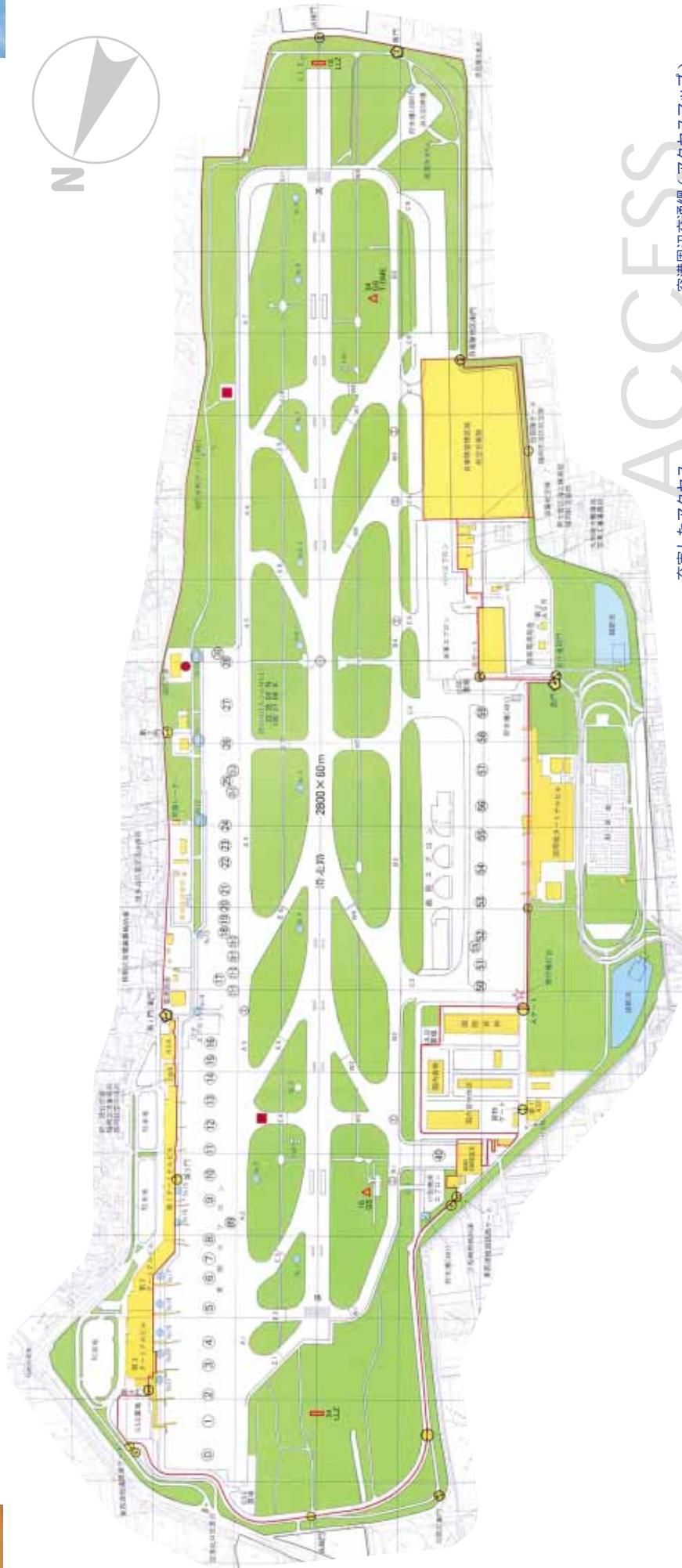


# 福岡空港制限表面圖



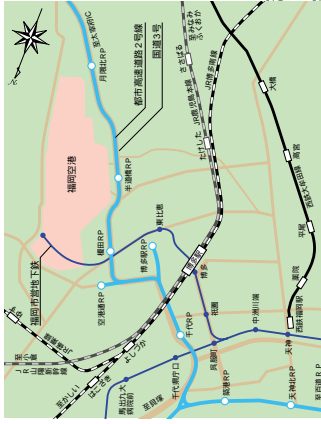


# 福岡空港見取図



## ACCESS

空港周辺交通網(アクセスマップ)



### 充実したアクセス

- 各交通機関からのアクセス
- 福岡市営地下鉄から



- J R・新幹線から



- 一般道路・高速道路からのアクセス  
九州自動車道「水野府 I.C.」から  
都市高速2号線「半運橋ランプ」降車後、国道3号線  
(博多バイパス)を経て、空港口交差点を右折



# もっと感動、空はフロンティア



## 9月20日は空の日

「空の日」、「空の旬間」について

戦後我が国の民間航空が再開されてからの50年を振り返るとき、  
航空の飛躍的な進歩は目を見張るものがあります。  
今日では、航空は、人と人、地域と地域、国と国を結ぶ大切な交通機関となっています。  
21世紀に向け、今後も更に安全で快適な航空を願って、  
9月20日の「空の日」、9月20日～30日の「空の旬間」を中心に  
全国各地でさまざまな行事が行われます。



民間航空再開50周年記念 福岡空港シンボルマーク  
最優秀（福岡市 藤原史子さん）作品

国土交通省大阪航空局 福岡空港事務所

〒812-0005 福岡市博多区上臼井字屋敷295 TEL092-621-2221



このパンフレットには古紙配合率100%の再生紙と、従来のインキに含まれていた石油系溶剤の一部の代替として大豆油を使用し作成しています。